

全国「新・湯治」効果測定調査プロジェクト ご報告

新・湯治 

令和6年11月

全国「新・湯治」効果測定調査プロジェクト事務局
一般財団法人日本健康開発財団温泉医科学研究所
早坂信哉

環境省が取り組む温泉地活性化の方針（有識者会議提言）

新・湯治推進プラン

… 「新・湯治」を提供する場としての新しい温泉地のあり方、環境省や関係機関に求めることをまとめたもの

楽しく、元気になるプログラムの提供

- 泉質、地域資源を活かしたプログラムの提供
- 多様な温泉地間の連携による情報発信等
- 年代、国籍を問わず、長期滞在しやすい宿泊プランづくり

温泉地の環境づくり

- 外湯めぐりの充実といった「にぎわいの創出」
- 周辺の自然環境等の地域資源を一体的に評価し、持続的な利用
- 温泉地を拠点とした広域周遊、国立公園満喫プロジェクトとの連携

「新・湯治」の効果の把握と普及、全国展開

- 温泉地全体の療養効果等を科学的に把握し、その結果の情報発信
- 統一フォーマットの提示により、全国的なデータの蓄積、評価、公開
- ストレス社会、健康長寿社会における重要性を踏まえた準備

推進体制の構築等

- 地域会社設立や観光組織（DMO等）の活用による体制づくり、財源確保
- 地域外の民間企業等との連携
- 関係省庁の連携

国民保養温泉地が中核的・先進的な役割

- 環境省では、温泉地の協力を得て、温泉地全体で得られる療養効果を全国初の統一フォーマットで把握。
- 全国の温泉地の視点に立って情報発信するため、「全国『新・湯治』効果測定調査プロジェクト」を平成30年度より実施した。
- 令和3年8月に、平成30年から令和2年までの3年分のデータ(11,830件)をとりまとめて公表した。

※環境省HPで公表

https://www.env.go.jp/nature/onsen/spa/spa_project.html

※今年度も調査実施中。

- 調査対象地:

平成30年度 (20カ所)

平成31年度 (19カ所)

令和2年度 (16カ所)

令和3年度 (15カ所)

令和4年度 (6カ所)

令和5年度 (6カ所)

の全国の温泉地又は温泉施設

(令和2-3年度はWEBによる全国自由参加と大分県民健康アプリ併用)

- 調査対象者:

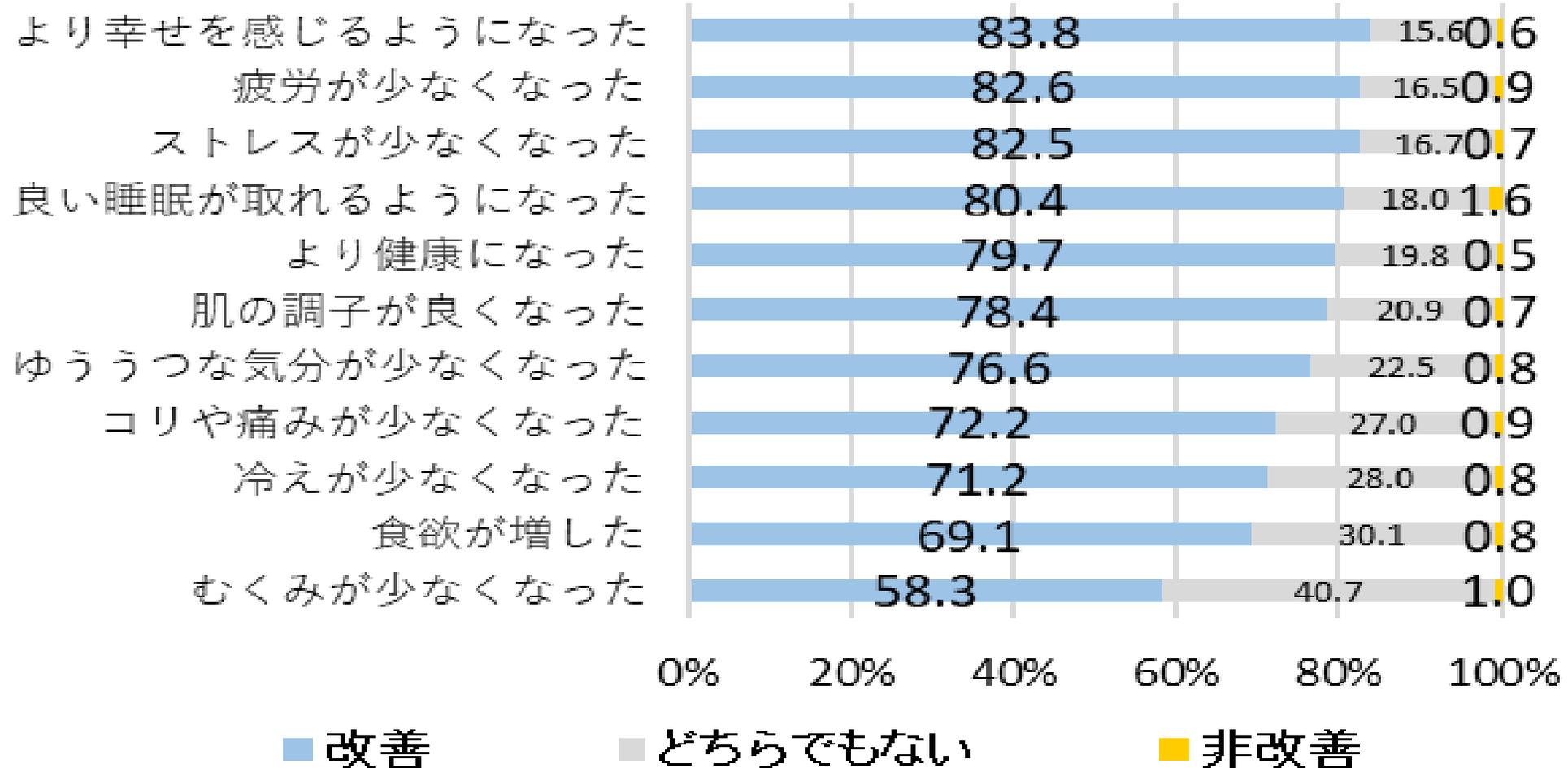
温泉地を訪れた成人 平均年齢55.5歳(標準偏差15.7)

- 調査時期：
平成30年7月10日～令和5年11月3日
- 有効回答数： 19,575件
 - 男： 7,892人
 - 女： 8,821人
 - 性別未記入： 2,862人
- 調査事務局：
一般財団法人 日本健康開発財団（環境省から委託）

主な結果

- 日帰り23.3%、1泊2日61.9%
- 温泉の利用目的
 - 温泉が好き 58.5%
 - ストレス解消 49.0%
 - 疲労回復・健康増進 27.3%
 - 身体の疾病の療養 15.0%
- 温泉地訪問後の感想
 - 癒された 98.6%
 - リフレッシュできた 98.3%
 - 良い思い出ができた 95.6%
 - わくわくした、楽しかった 92.6%

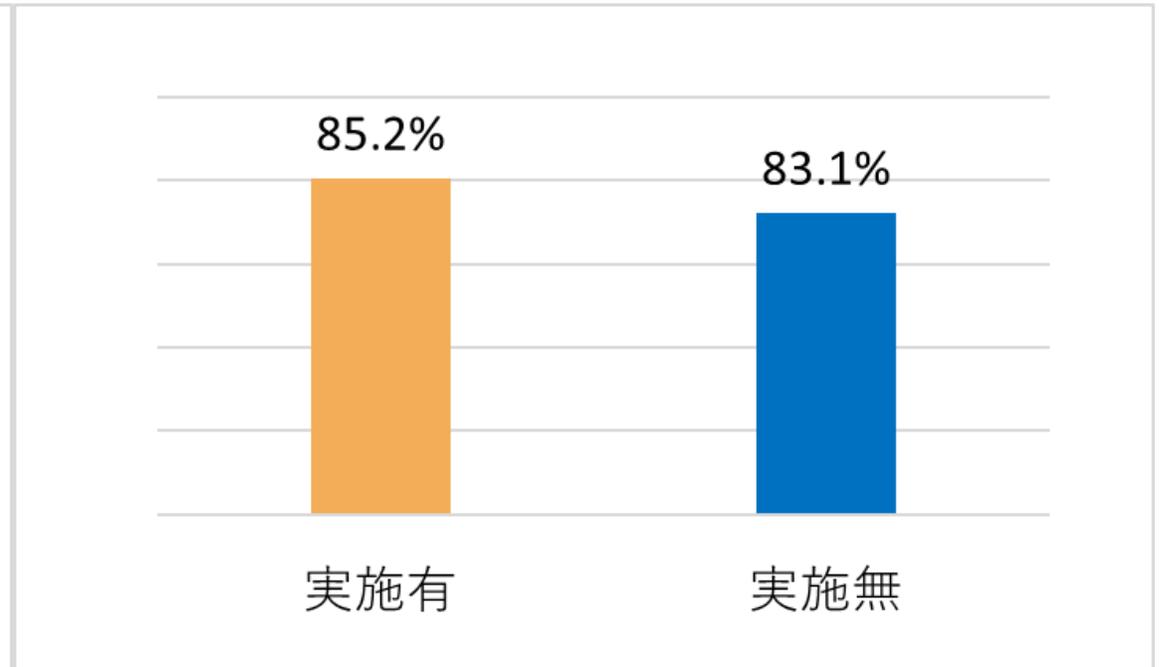
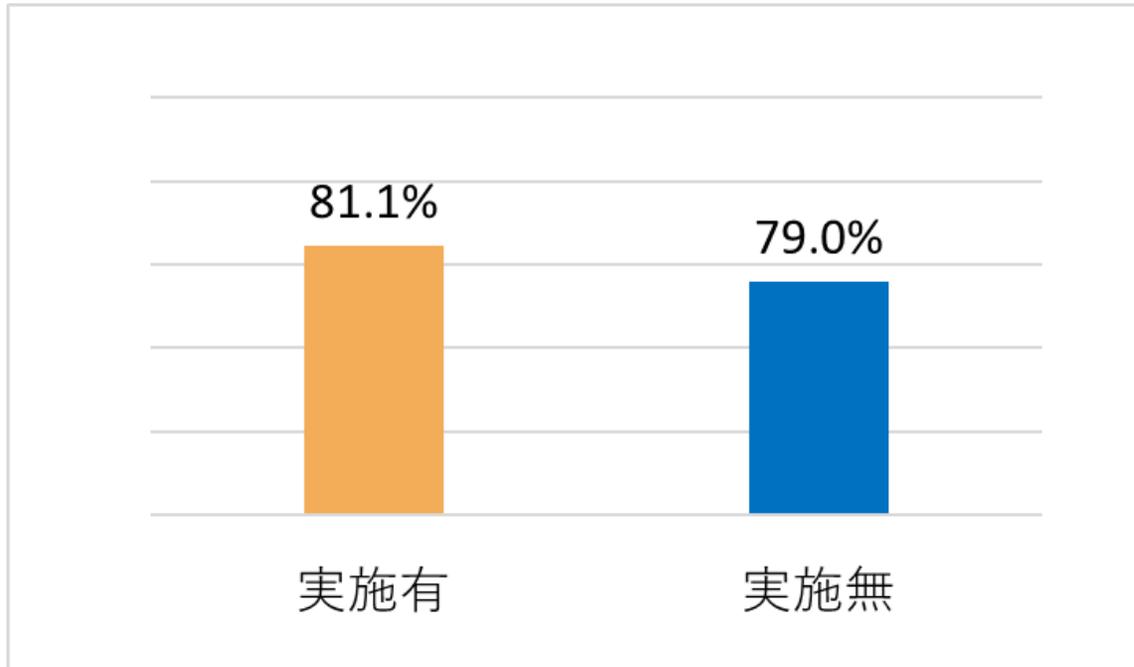
温泉利用後の心身の変化



- 温泉利用後の心身の変化(アクティビティ有無別)

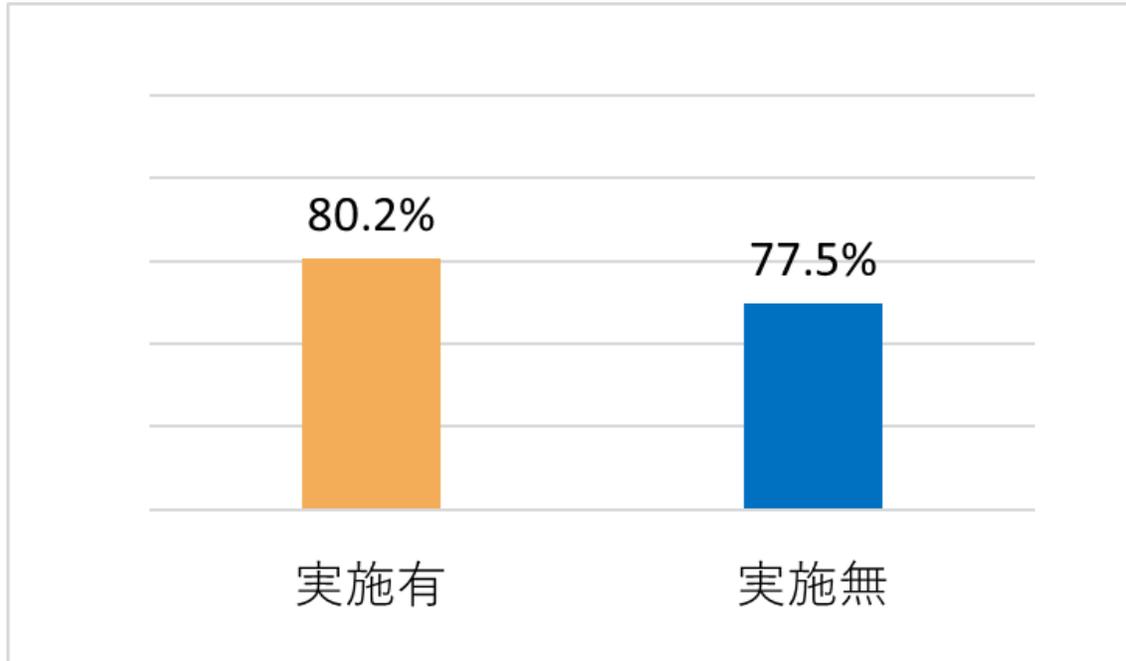
より健康になった

より幸せを感じるようになった

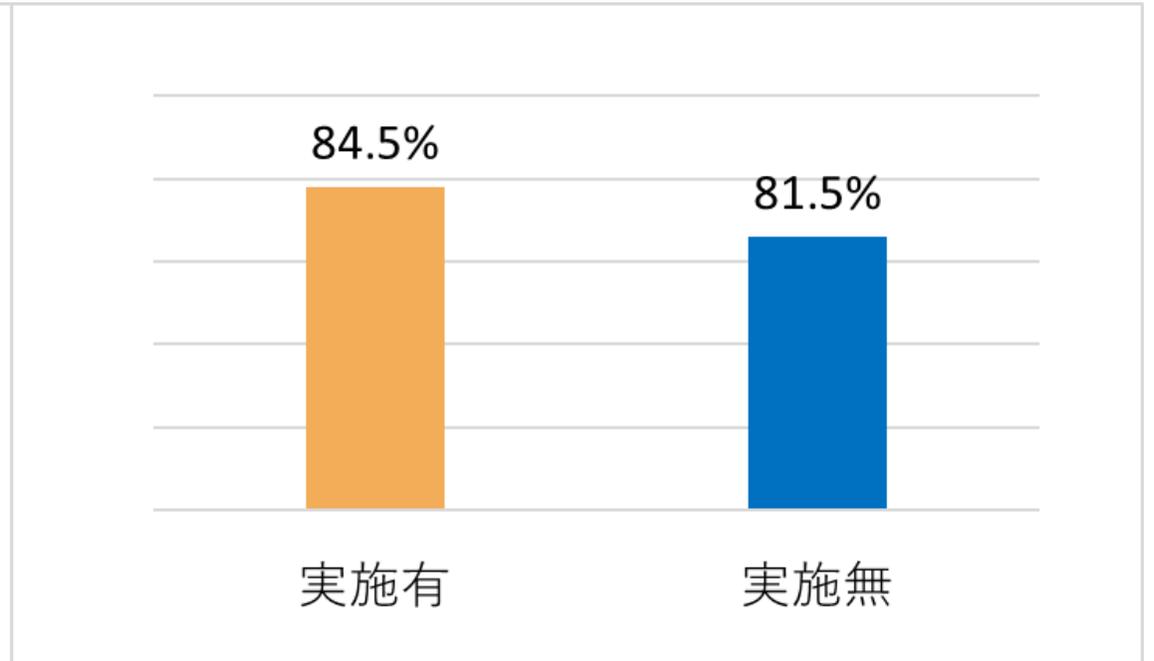


- 温泉利用後の心身の変化(アクティビティ有無別)

肌の調子が良くなった

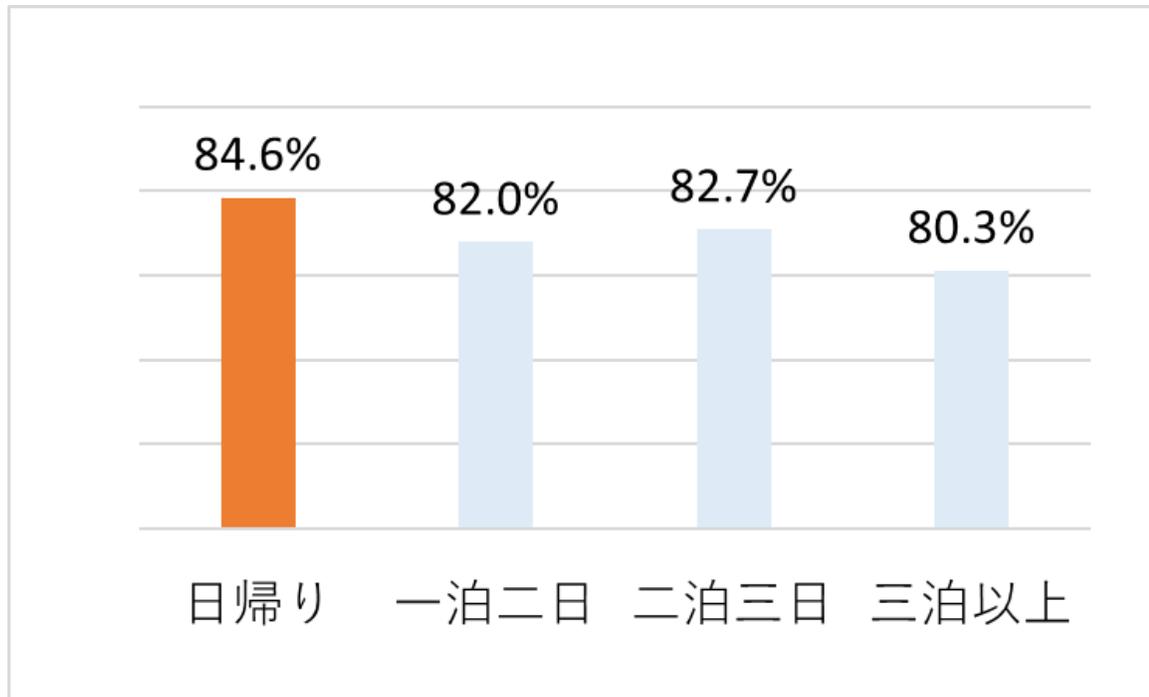


ストレスが少なくなった

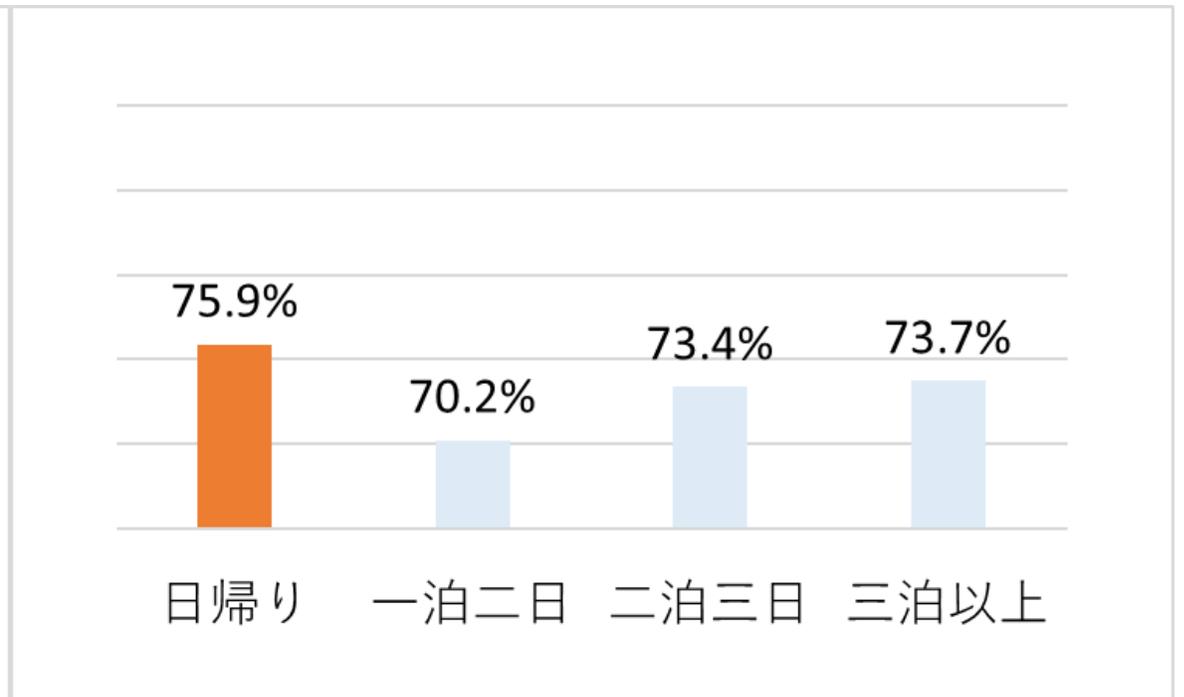


・温泉利用後の心身の変化(滞在期間別)

疲労が少なくなった

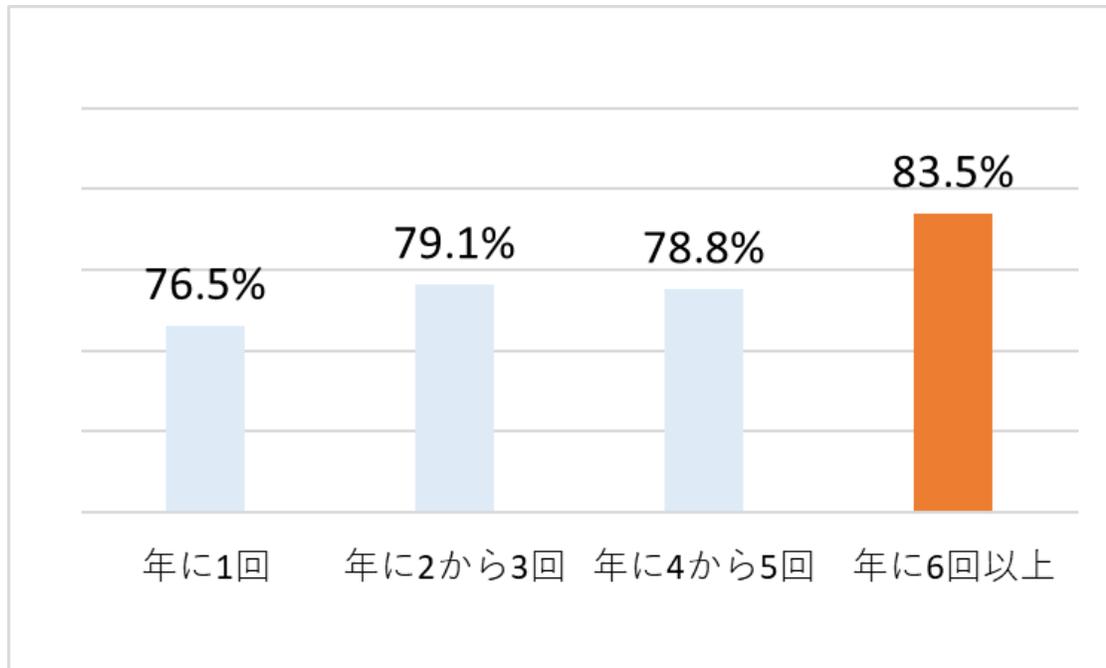


コリや痛みが少なくなった

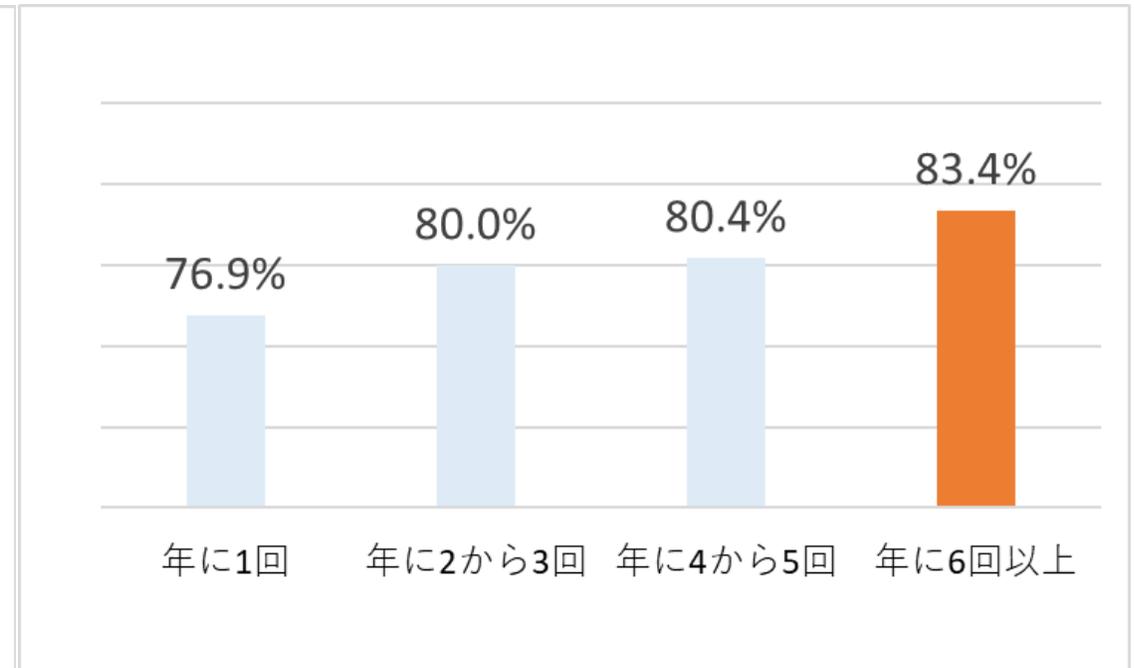


・温泉利用後の心身の変化(温泉訪問頻度別)

より健康になった



よい睡眠が取れるようになった



結果①

温泉地滞在後は心身に良い変化が得られた。

結果②

単に湯に浸かるだけではなく、ゴルフや登山などの運動、温泉地での周辺観光や食べ歩き、マッサージやエステなどのアクティビティを行うこと等が、より良い心身への変化に関連していた。

結果③

長期間の温泉地滞在ではなくても日帰りや1泊2日、年間を通して高頻度で温泉を訪れることで心身への良い影響が見受けられた。

「新・湯治」効果測定調査プロジェクトを各温泉地で 自走型モデル事業の実施

モデル温泉地

玉川温泉・新玉川温泉(秋田県)

菊池温泉(熊本県)

花いろ温泉(大分県)

ひょうたん温泉(大分県)

美又温泉(島根県)

湯屋温泉(島根県)

「新・湯治」効果測定調査プロジェクトを各温泉地で 自走化に向けたモデル事業の実施

- これまで同様に調査に参加いただく
- 結果を調査事務局で各温泉地ごとに集計、解析
- 各温泉地のPRにそのまま使えるようにメディア向けプレスリリース案を事務局で作成をして温泉地へ提供
- 温泉地の活性化に向けて各温泉地でメディアを活用した情報発信、集客へとつなげる

「新・湯治」調査
エビデンスの取得

各温泉地の良さを
それぞれ数値化

メディア等での発信

温泉地活性化

- 昨年度は公募を行い全国6か所で実施
- アンケートの収集からデータベースの作成までは各所で実施
- そのデータベースを研究職が解析し結果をフィードバック
- 各温泉地で温泉地活性化に向けた活用に期待

2023年度
「新・湯治」効果測定調査プロジェクト結果概要報告



利用者の約8割がより健康になったことを実感！

新・湯治。

では、環境省が実施しています温泉地で得られる療養効果を把握するための「全国『新・湯治』効果測定調査プロジェクト」に参加し、調査を実施しました。この度、2023年度に実施しました314件の結果がとりまとめられましたので、ご報告いたします。

結果① 温泉地滞在後は心身に良い変化が得られ、98.2%が癒されたと感じました。

結果② 著名な湯治場として名をはせる温泉地は、全国平均と比べて「健康」「コリや痛み」「むくみ」「冷え」が改善されると答えられた方の割合が高く、温泉入浴により身体の状態改善に期待。

結果③ 温泉地の泉質を評価し、「湯治」利用客も多く、入浴による心身の状態の改善（癒す等）を高く評価しています。

■調査の実施方法

- ・調査地点
- ・有効回答数：314件(男：119人、女：181人、未記入：14人)
- ・対象者年齢：63.2±13.7歳(平均±標準偏差)
- ・調査時期：2023年7月中旬～10月31日
- ・方法：全国統一の自記式調査票(調査紙、WEB)を用いた横断調査

調査票は温泉地利用者へ各旅館の受付で調査票を配布し、回収しました。調査は一般財団法人日本健康開発財団(環境省から委託)が実施しました。

■主な調査結果(1) 温泉地訪問・利用後の主観的变化

①温泉地訪問の主観的な感想(複数回答)



感想	改善	非改善
癒された	98.2%	1.8%
リフレッシュできた	98.4%	1.6%
良い思い出ができた	95.8%	4.2%
わくわくした、楽しかった	91.9%	8.1%
温泉地の知識や理解が深まった	81.4%	18.6%

②温泉地利用後の心身の主観的变化(複数回答)



変化	改善	変化なし	非改善
より幸せを感じるようになった	94.0%	6.0%	0.0%
より健康になった	92.5%	7.5%	0.0%
良い睡眠が取れるようになった	92.1%	8.0%	0.0%
ストレスがなくなった	90.7%	9.3%	0.0%
疲労がなくなった	79.7%	20.3%	0.0%
コリや痛みがなくなった	79.3%	20.7%	0.0%
ゆううつな気分がなくなった	73.0%	27.0%	0.0%
肌の調子が良くなった	73.0%	27.0%	0.0%
冷えがなくなった	68.0%	32.0%	0.0%
食欲が増した	61.0%	39.0%	0.0%
むくみがなくなった	61.0%	39.0%	0.0%

・温泉地訪問の主観的な感想では、「癒された」「リフレッシュできた」「良い思い出ができた」「わくわく、楽しかった」を9割以上の利用者が実感しています。

・温泉地利用で、「幸せを感じる」「より健康になった」「睡眠」「ストレス」など多くの主観的項目で7~8割の利用者が改善しています。

(2) 結果（無回答を除く有効パーセントから）

・コリや痛みが少なくなった



・むくみが少なくなった



・冷えが少なくなった



・より健康になった



・と全国平均との比較から、「コリや痛み」「むくみ」「冷え」が少なくなった、及び「より健康になった」の身体の改善を感じた利用者が多いことがわかりました。
 ・昔ながらの湯治場としての環境、天然の岩盤浴、塩化物を含む強い酸性の温泉であることから、上記の改善を感じられた可能性があります。

(3) 温泉地についての感想のワードクラウド(自由記述の分析結果)



・温泉地の感想から、「良い温泉」「強酸性」「酸性」と温泉の質の高さを高く評価した感想が多いことがわかりました。
 ・もともと病後の療養に来る利用者が多い温泉として著名ですが、「湯治」「岩盤浴」や「癒す」のワード記載も多く、湯治を目的とした利用者が多いことが改めて確認できました。
 ・温泉の泉質の良さから湯治として利用され、心身の状態改善がみられることが示されました。

ユーザーローカル テキストマイニングツールを使用
 (<https://textmining.userlocal.jp/>)

- ・「新・湯治」効果測定調査プロジェクトを各温泉地で自走できるためのモデル事業の実施 結果抜粋(例)
- ・『温泉地滞在後は心身に良い変化が得られ、98.2%が癒されたと感じました。』
- ・『全国平均と比べて「健康」「コリや痛み」「むくみ」「冷え」が改善されると答えた方の割合が高く、温泉入浴により身体の状態改善に期待。』

「新・湯治」効果測定調査プロジェクトを各温泉地で自走できるためのモデル事業の実施

プレスリリース原稿のその後の利活用

- 温泉組合内で共有して各自PRに利用
- 結果のグラフをSNS投稿でPRに利用する
- 今後イベントの際にプレスリリースとしてメディアに発信して活用する予定

今年度も今後の調査事業の自走化を念頭に入れてモデル温泉地で実施中

「新・湯治」効果測定調査プロジェクトデータの利活用

- データを利用して、研究活動にも広く活用いただき温泉地のさらなる活性化に資することを目的とする。
- 全国「新・湯治」効果測定調査プロジェクトデータ利用規則を整備した。
- 引き続き活用を支援している。

「新・湯治」効果測定調査プロジェクトデータの利活用

- 調査に参加した温泉地関係者、調査事務局関係者の他外部研究者等にもデータを貸与して研究等に活用。
- 研究結果は各温泉地のPRにも活用の可能性も
- 利用可能データ:6年間19,575件分のアンケート結果
- 利用希望者は調査事務局(日本健康開発財団)へ利用申請
- 実績:のべ28件の問い合わせ

8件の利用申請→1件論文化され公開された。

「短期間の温泉地滞在における入浴以外の活動の主観的な効果」

他、卒論1件、現在解析中1件

※利用申請手続きについては下記HPご参照

環境省HP(https://www.env.go.jp/nature/onsen/spa/spa_project.html)

日本健康開発財団HP(<https://reg34.smp.ne.jp/regist/is?SMPFORM=mbrc-lisbmj-c6923c1a14cd97b47bdb50428a6d94b3>)

まとめ

1. 「新・湯治」効果測定調査プロジェクト6年分の結果概要を報告した。
2. モデル事業の概要を報告した。
3. 「新・湯治」効果測定調査プロジェクトデータの利活用について紹介した。